

かい ぎ ろく
会 議 録

<p>かいぎ めいしやう 会議の名称</p>	<p>だい かいこまきしたぶんかきやうせいきやうざいかい 第2回小牧市多文化共生協議会</p>			
<p>かいさいにちじ 開催日時</p>	<p>れいわがねん がつ にち きん じ ふん じ ふん 令和元年11月22日(金) 19時00分～20時30分</p>			
<p>かいさいばしょ 開催場所</p>	<p>こまきしやくしよ ほんちやうしや かい かいぎしつ 小牧市役所 本庁舎4階 404会議室</p>			
<p>しゆつせきしや およ 出席者 及び</p> <p>けつせきしや 欠席者</p>	<p>しゆつせきしや ○出席者</p> <p>いいん 【委員】</p> <p>こんどうかいちやう ひだ の いいん かわついいん こやなぎいいん まえだいいん やまもといいん たかさきいいん 近藤会長、肥田野委員、川津委員、小柳委員、前田委員、山本委員、高崎委員、</p> <p>すざきいいん ひらさきいいん さかもといいん おぐらいん しみずいいん なかむらいん くりきいいん 須崎委員、平坂委員、坂本委員、小椋委員、清水委員、中村委員、栗木委員</p> <p>がっこうきやういくかしどうしゆじ はやしいいん しみんせいかつぶじちやう (学校教育課指導主事)、林 委員(市民生活部次長)</p> <p>じむきよく 【事務局】</p> <p>いとうしつちやう かねこかやちやう みやざわしゆじほ 伊藤室長、金子係長、宮澤主事補、</p> <p>かぶしがいいしやさーべいりさーちせんたー いたくぎやうしや 株式会社サーベイリサーチセンター(委託業者)</p> <p>けつせきしや ○欠席者</p> <p>あらがきいいん やまもといいん 新垣委員、山本委員</p>			
<p>ぼうちやう か ひ 傍聴の可否</p>	<p>か <input checked="" type="checkbox"/>可</p>	<p>ひ <input type="checkbox"/>否</p>	<p>ぼうちやうにんずう 傍聴人数</p>	<p>めい 0名</p>
<p>かいぎしだい 会議次第</p>	<p>かいかい 1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>ないやう 3 内容</p> <p>(1)こまき市民「多文化共生」ワークショップ実施報告 しみん たぶんかきやうせい わーくしよつ ぶじつしほうこく</p> <p>(2)多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について たぶんかきやうせいすいしんぷらん だい じ ぷらん あん</p> <p>4 その他 た</p>			
<p>はいふしりやう 配付資料</p>	<p>しだい 次第</p> <p>しりやう 資料1</p> <p>こまき市民「多文化共生」ワークショップ ～みんなで小牧の多文化 しみん たぶんかきやうせい わーくしよつ ぶ こまき たぶんか 共生を かんが えよう～ 実施報告 きやうせい かんが じつしほうこく</p>			

	<p>しりょう 資料2 こまきしたぶんかきょうせいすいしんぷらん だいじぶらん あん 小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)</p> <p>さんこうしりょう 参考資料1 こまきしたぶんかきょうせいきょうぎかいせつちようこう 小牧市多文化共生協議会設置要綱</p> <p>さんこうしりょう 参考資料2 こまきしたぶんかきょうせいきょうぎかい いいんめいぼ 小牧市多文化共生協議会 委員名簿</p>
<p>といあわ さき 問合せ先</p>	<p>こまきしやくしよ しみんせいかつぶ たぶんかきょうせいすいしんしつ たぶんかきょうせいがゆめ 小牧市役所 市民生活部 多文化共生推進室 多文化共生係</p>
<p>かいぎないよう 会議内容</p>	<p>じペーじいこう さんしやう 次ページ以降を参照</p>

かい ぎ ない よう 会 議 内 容

1 開会

しみんけんしょうしょうわ
市民憲章唱和

2 あいさつ

こんどうかいちょう
近藤会長よりあいさつ

じむきょく (事務局)

ほんきょうぎかい こまきししんぎかいとう かいぎ こうかい かん ししん だい じょう きてい もと げんそく
本協議会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」第3条の規定に基づき、原則とし
こうかい ほんじつ ぼうちょう もう こ ほうこく
て公開することとじていますが、本日は、傍聴の申し込みがありませんでしたので、ご報告させてい
ただきます。

つづ ほんじつ しりょう かくにん
続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

しりょうかくにん 《資料確認》

しりょう かぶそく じむきょく もう
資料に過不足がございましたら、事務局までお申しつけください。よろしいでしょうか。

まず、「3. 内容」に入ります前に、事務局より報告事項があります。恐れ入りますが、参考資料1
らん
をご覧ください。

さんこうしりょう こまきしたぶんかきょうせいきょうぎかいせつちようこう ほんようこう だい かい きょうぎかい
参考資料1、小牧市多文化共生協議会設置要綱でございます。本要綱は、第1回の協議会にも
しめ ご がつ こまきし そしきかいせい ほんきょうぎかい
お示しさせていただきましたが、その後、8月に小牧市において組織改正があり、本協議会の
じむきょく たんとう か していぶろもーしょんか たぶんかきょうせいすいしんしつ かいせい
事務局を担当する課が、シティプロモーション課から多文化共生推進室へ改正させていただきました
ので、ご報告させていただきます。

このことにより、事務局員に交代が生じたので、改めて自己紹介をさせていただきます。

じむきょくじ こしょうかい 《事務局自己紹介》

じむきょく (事務局)

どうぞよろしくお願いたします。

つづ しりょう らん こまきしたぶんかきょうせいきょうぎかい いいんめいぼ ほんめいぼ
続きまして、資料2をご覧ください。小牧市多文化共生協議会の委員名簿でございます。本名簿
いちばんした ほんきょうぎかい たんとうかちょうへんこう ともな し じむきょくたんとうぶぎょく せんしめつ
の一番下になりますが、本協議会の担当課長変更に伴い、市の事務局担当部局より選出してお
り委員が交代となりましたので、ご紹介させていただきます。市民生活部次長の林でございます
ます。

はやしいんじ こしょうかい
《林委員自己紹介》

じむきょく
(事務局)

どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、次第の「3. 内容」に移りますが、今後の進行につきましては、近藤会長にお願ひしたいと思ひます。近藤会長、よろしくお願ひします。

ないよう
3 内容

こんどうかいちょう
(近藤会長)

それでは、次第の「3. 内容」の「(1)こまき市民「多文化共生」ワークショップ実施報告」について事務局に説明を求めます。

じむきょく
(事務局)

それでは、「こまき市民「多文化共生」ワークショップについて」ご説明いたします。恐れ入りますが、資料1をご覧ください。

まず始めに実施概要についてであります。「1. ワークショップの概要」をご覧ください。ワークショップの開催趣旨としましては、第2次プランの策定に伴い、現プランの評価および現状の課題の抽出と、今後対応していく必要のある施策への反映のため実施したものであります。なおワークショップは小牧市と一般社団法人小牧青年会議所の協働で開催し、多文化共生推進について行政・市民・企業の立場からの活動報告と、日本人市民外国人市民による意見交換を行いました。

次に「(1)実施概要」です。ワークショップは7月6日土曜日の15時から17時15分、まなび創造館4階の多目的室で実施しました。参加対象の方は、日本語でコミュニケーションがとれる市内在住・在勤・在学の日本人市民および外国人市民とし、参加者を募集しました。当日の参加人数は市の職員および青年会議所等のスタッフを除いて約40名の方にご参加いただきました。

続いて「(2)ワークショッププログラム」の表をご覧ください。まずは主催者挨拶を行い、小牧市から外国人市民を取り巻く現状について外国人数の推移や、小牧市で行われている取り組みについて説明させていただきました。

続いて多文化共生活動報告では、市民と企業の立場から活動を行っている方の報告をいただ

きました。市民代表としては NPO 法人にわどりの会代表の丹羽典子様から外国人市民の親子の
子育てと学習支援について、企業代表としてはエスエス産業のホアン・ウェット様から来日する
外国人留学生と実習生の生活についてお話いただきました。

2 ページをお願いします。その後のグループワークでは日本人市民と外国人市民とで構成され
た 7 グループにおいて小牧市での課題について意見交換を行い、グループごとにまとめた意見
を発表していただきました。

最後はまとめとして青年会議所の終了挨拶を行い、記念撮影と参加者アンケートの記入をもつ
て終了しました。

続きまして、「(3) 告知」であります。ワークショップの告知と参加者募集では、参加申込書付きの
チラシを作成し、市広報およびホームページ上で告知を行いました。

3 ページをお願いします。「2. ワークショップの結果まとめ」であります。こちらでは、
グループワークで出された意見についてまとめました。

グループワークでは小牧市で外国人市民と日本人市民が共に暮らしていく中での課題につい
て参加者の方に考えていただき、グループ内で意見を出し合いました。その次に、出た意見に対
してどの主体が取り組むかという視点で整理をし、グループごとに結果をまとめていただきました。
課題に取り組む主体については資料に抜粋してあります 7 つの主体ごとに整理をしました。個別の
内容の説明は省略させていただきますが、ご覧の通り教育・福祉・防災など生活の様々な場面で
の課題がある現状がうかがえる結果となっております。

5 ページをお願いします。「3. 今後の課題」であります。今回のワークショップの結果を踏まえたう
で、今後の取り組むべき課題についてまとめました。

まずは「(1) 新たな言語への対応」です。在留外国人におけるベトナム人の割合が増加している
ことを受け、ワークショップでは、ベトナム語の通訳を求める声がありました。今後増加すると見込ま
れるアジア諸国の言語も踏まえながら、やさしい日本語での対応が求められました。

「(2) 学校での子ども・保護者への支援」であります。3 行目になりますが、子どもの学校生活のた
めに学習支援だけでなく、保護者にも届くような支援の在り方の検討が求められました。

「(3) 子育て・福祉への取り組み」であります。子どもの予防接種や相談、高齢の外国人市民への
対応など、日本人市民と同等の幅広い支援が求められました。

「(4)日本語でのコミュニケーションについて」であります。災害時をはじめ、標識や敬語などの日本語が、外国人市民に理解しにくいという意見があり、やさしい日本語の普及が求められました。

6ページをお願いします。ワークショップ当日の会場の写真であり、ご覧の通り各テーブルの席が埋まるほどのたくさんの方にご参加いただきました。

7ページをお願いします。「5. 参加者アンケート結果」であります。こちらはワークショップ終了後に参加者の方に記入いただいたアンケートの結果の一部を記載しました。

アンケートではワークショップの感想の他に、他の参加者の方の参考になった意見とその意見についてどう思ったか、課題を改善するために地域がどんなことを行うか、また参加者自身が課題に対してどう行動するかについて回答していただきました。

参考になった意見では外国人市民と日本人市民双方がお互いの文化を知りながら交流することが挙げられており、共に暮らしていくうえで相互の理解を深めていく重要性について考えていただけだと思います。

また日本人市民の間では、外国人市民が持つ悩みや困りごとについて実際に話を聞いて理解できたという感想をいただきました。

以上で、「こまき市民「多文化共生」ワークショップについて」の説明を終わります。よろしく願いいたします。

（近藤会長）

説明が終わりました。「こまき市民「多文化共生」ワークショップ実施報告」について、何かご意見・ご質問はございませんか。

（小柳委員）

非常に的を射たワークショップをやれたなと思います。すべての事をしたわけではありませんが、特に学校、学校と保護者の関係、地域では耳に入ります。後で、プランに出てきますが、そういう面では非常に的を射たワークショップである、40人という規模にしては、幅広い意見を取り入れた発言をしている人が多いなと思いました。

（肥田野委員）

実はこのワークショップに参加してまいりました。非常に活気ある雰囲気、外国籍の方々の

意見も聞くことができ、良かったなと思います。それで、一点、ワークショップのまとめで、「国の取り組み」という部分がございます。良い意見をいただいていますので、どのように国に対して意見を提案するのをお聞かせください。

じむきょく
(事務局)

小牧の中での取り組み、国の取り組み、ということでなかなか難しいところではありますが、例えば、愛知県を通じてだとか、小牧市においては、外国人集住都市会議に参画しておりますので、そちらを通じてなど、様々な方法で今後、声を上げていきたいと考えています。

なかむらいいん
(中村委員)

今回ワークショップをやられたわけですが、大変良い結果だったようで、今後も続けていくのか、一回きりなのか、小牧市としてはどう考えているのかをお聞かせください。

じむきょく
(事務局)

今後ワークショップを続けていくかどうかについては、資料2、36 ページの推進体制において、このようなワークショップを実施していきたいと考えています。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

ご意見等ないようですので、次に移ります。内容の「(2)多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について」、事務局に説明を求めます。

じむきょく
(事務局)

それでは、「多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について」ご説明いたします。恐れ入りますが、資料の2をご覧ください。

まず案全体についてですが、レイアウトは未着手のためルビをふったうえで今後レイアウトを調整して作成します。ページ番号も完成後に再度調整する予定となっております。

また赤字の部分は現在のプラン、いわゆる第1次プランの内容に追加、加筆または変更した内容となっております。

内容について全てご説明するのが本来ではありますが、量が多いため、主な部分についてご説明いたしますので、よろしくお願ひいたします。

まず、2ページをお願いします。こまき調査の説明に 2018年に実施した調査について加筆しました。

次に4ページをお願いします。「もくじ」でありますが、第2次プランでは章立てを変更しており、第1章をプラン策定の背景と取り組みとしました。第1次プランでは第1章となっているプランの具体的な内容は、第2章とし、プラン推進とその体制は第3章としています。第1次プランにおける「資料編」に相当する部分は、第3章の次以降に追加する予定です。

6ページをお願いします。第1章はプランの背景と取り組みとして、現在までの策定の背景と今年度の改定に向けた取り組みについて記載しました。「1. プラン策定の背景」では、「1-1. 小牧市を取り巻く環境」として、国と県の多文化共生施策の状況および小牧市を取り巻く環境を、8ページからになりますが、「1-2. 小牧市に暮らす外国人市民の現状」として、外国人市民の現状について統計資料と共に示しました。統計資料は第1次プランと同様に、小牧市の外国人登録者数・住民数の推移や国籍別の比率について述べています。またこまき調査の結果から差別されたと感じる外国人市民数の変化について記載しました。

13ページをお願いします。「2. プラン改定に向けた取り組み」では、「2-1. 第1次プランの検証」としまして、第1次プランの各基本目標ごとの達成率、「第2回こまき調査」と題していますが、2018年3月に実施したアンケート、先ほどご報告いたしましたワークショップ、今年度開催しております会議の結果をまとめております。

第1次プランの検証は、基本目標の達成状況の把握、第2回こまき調査の結果と、ワークショップで挙げられた意見から、プランの目指す状態が達成されているかを確認しました。また庁内の会議では、各基本目標の取り組みについて継続して行うかを検討し、新しい課題に対する対応策の意見集約を行いました。

16ページをお願いします。「2-2. プラン改定のポイント」であります。ここでは、検証した結果もとおもへんこうないうじょうほうはっしんこかかたくやくわりもくてきなにかをしめ何をどのように変えるのかわかりやすく示しています。

17ページをお願いします。ここからは、「第2章 プランの具体的な内容」であります。第2章の構成は、第1次プランの第1章の構成を継承し、プランに込めた基本的な考え方と、基本目標ごとに小牧市の現状と課題、挑戦することを記載しました。

18ページをお願いします。「1. プランに込めた基本的な考え方」であります。こちらは、前回の会議において、「現在のプランの基本的な考え方等を継承する」との方針をご了承いただいております。

りますので、変更はありません。

続きまして、「2. 市民一人ひとりの活動を広げていこう」であります。

第1次プランでは「できることからはじめよう」という考えのもと、「挑戦すること」に取り組んできましたが、第2次プランでは挑戦することを継続しつつ新しいことに取り組みながら活動を広げていくという考えを提示しました。

19ページをお願いします。「3. プランの体系図」であります。第1次プランでは、「できることからはじめよう」編となっていますが、第2次プランでは、「できることを広げていこう」編としております。

また後程ご説明しますが、めざすこと③は、これまでの「正しいごみの出し方を知り、ごみの減量をめざします」に替わり「誰もが暮らしの情報を知ることができるようにします」となっております。

20ページをお願いします。それぞれの「めざすこと」について、ご説明します。

めざすこと①は、第1次プランと同じものではありませんが、防災情報メール配信サービスや119番通報の多言語化等の取り組みを行っていることを踏まえ、現状を修正しております。

21ページをお願いします。実行する人についてですが、前プランでは市民の自治会に当たる部分を次期プランでは区(自治会)・地域協議会とし、自治会のみに限定しない表現に改めました。

また、市の組織改正に伴い、庁内の課の名称や担当する部署が変更になっております。なお、「挑戦すること」の中身については、危機管理課の2項目目で非常配備態勢の見直しや、同じく7項目目の防災情報メール配信サービスの多言語での周知に取り組むなどの項目を修正しております。

23ページをお願いします。めざすこと②も、第1次プランと同じものですが、(1)には地域協議会などの地域コミュニティ組織の記載を、(2)には第2回こまき調査の分析結果を入れ、修正しております。

24ページをお願いします。主な項目としては、協働推進課の2項目目で、「自治会のしおり」を各区に配布するなどの項目を修正しております。

25ページをお願いします。めざすこと③は、基本目標も含め、大幅に内容を変更しました。第1次プランではごみ出しに関する内容が主となっておりますが、こまき調査の結果によると、ごみの分別は外国人市民に広く周知されている状況であることや、外国人市民の情報入手手段が以前

ひかく へんか こと たいおう だ ふく せいかつじょうほうぜんぼん はっしん かん ないよう
と比較して変化している事に対応するため、ごみ出しを含めた生活情報全般の発信に関する内容
へんこう
に変更しました。

げんじょう げんざい と く ちょうさ けっか かだい ちょうさ み
現状では現在の取り組みと、こまき調査の結果を、こまきの課題では、こまき調査から見えてく
る、生活に必要な情報が十分に伝わっていない現状を、さらにめざすことを考えた理由では、
がいこくじんしみん じょうほう ていきょう がいこくじんしみん せいかつ ひつよう じょうほう し
外国人市民にもわかりやすい情報の提供や、外国人市民も生活に必要な情報を知ろうとすること
ひつよう つう にほんじんしみん がいこくじんしみん あいだ りかい すず たが こうりゅう う
が必要であり、これらを通じ、日本人市民と外国人市民の間の理解が進み、お互いの交流が生ま
れるきっかけとする旨を記載しました。

ぐたいてき ないよう ページ ねが おも ないよう かくしゅたい がいこくじんしみん たい
具体的な内容は、26ページをお願いします。主な内容としましては、各主体が外国人市民に対
せいかつ ひつよう じょうほう る ー りん じょうほう しゅうしゅう つた あんないとう おも
し、生活に必要な情報やルール、どのように情報を収集するかなどを伝えることや、案内等に、主
にほんご しょう あ た ページ とく
にやさしい日本語を使用することが挙げられています。その他、27ページになりますが、特に
たぶん かきょうせいしんしつ こうもくめ にほんごきょうしつ はあく あんない こうもくめ せいかつ ひつよう じょうほうとう
多文化共生推進室では、3項目目で日本語教室の把握や案内、4項目目で生活に必要な情報等
しゅうしゅう こうざ かいほう あ
の収集についての講座の開発などを挙げています。

ページ ねが だい じぶらん おな ないよう
28ページをお願いします。めざすこと④は、第1次プランと同じ内容となっておりますが、29
ページ ちょうせん こうほうこうちょうか とく こまきしこそだ さいと たげんご
ページの挑戦することでは、広報広聴課の取り組みとして、「小牧市子育てサイト」を多言語で
ひょうじ かくぶしょ しゅうがくが いど あ
表示できるようにしたり、各部署が就学ガイドと合わせ、これをPRすることとしています。また30
ページ がっこうきょういくか こうもくめ がいこくじんしみん こ たい がくしゅうしえん とく
ページの学校教育課、8項目目となりますが、外国人市民の子どもに対する学習支援の取り組み
ついか
を追加しました。

ページ ねが だい じぶらん おな ないよう げんじょう ぶぶん とく
31ページをお願いします。めざすこと⑤も第1次プランと同じ内容ですが、現状の部分で、特に
さいだい かぎ やく にん ひとり がいこくせき しみん きさい
20～30歳代に限れば約8人に1人が外国籍の市民であることを記載しました。

ページ ねが ぐたいてき ないよう じっししゅたい だいがく ついか たと
32ページをお願いします。具体的な内容としまして、実施主体に「大学」を追加し、例えば
だいがくさい ぎょうじ ちゅうこうせい わか せだい がいこくじん がくせい さんか きさい
大学祭などの行事において、中高生などの若い世代や外国人の学生も参加できるよう記載して
おります。

ページ ねが だい しょう ぶらん すいしん たいせい しょう だい じ
34ページをお願いします。「第3章 プランの推進とその体制」であります。この章では、第1次
ぶらんだい しょう きさい いち けいかくきかん すいしんたいせい きさい あら じっし
プラン第2章に記載しております位置づけ、計画期間、推進体制を記載するとともに、新たに実施
しゅたい やくわり くわ ひょうかたいせい ぶらん たっせいど はか しひょう もくひょう せつてい
主体の役割を加えました。また評価体制については、プランの達成度を測る指標と目標を設定し
ました。

ページ ねが じっししゅたい やくわり ちょうせん じっこう やくわり にな しゅたい
35ページをお願いします。実施主体の役割では「挑戦すること」を実行する役割を担う主体ごと

に、基本的な役割を明記し、それぞれがどんなことに取り組むかを改めて示しました。

36ページをお願いします。第2次プランの位置づけは「小牧市まちづくり推進計画」の下位計画として「多文化共生」を推進する個別計画となっております。また計画期間は2020年度から2027年度までの8年間となっております。

次に「4. 推進体制および評価体制」ですが、「4-1. 推進体制」では、「4-1. 推進体制」では、市が「挑戦すること」の各項目の達成状況、いわゆるプランの進捗率を、年に1回調査することとしております。

37ページをお願いします。「4-2. 評価体制」では、第2次プランを評価する方法を予め定められております。具体的には、日本人市民と外国人市民に対するアンケート調査により、「基本的な考え方」や「めざすこと」の達成度を調査します。この調査と、年に1回調査するプランの進捗率とを合わせ、評価することとしております。

以上をもちまして「多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について」の説明とさせていただきます。よろしくお願いいいたします。

近藤会長

ご意見・ご質問ありますでしょうか。

須崎委員

たくさんあるのですが、全部一度に発言させていただきます。事前にプランの資料を送付いただきましたので、本日も配布いただきましたが、事前に送っていただいた方をもとに発言いたします。修正が済んでいる部分もあるかもしれませんが、よろしくお願いします。

まず、2ページですが、「多文化共生推進プランとは」の部分で改行はいらなないと思います。

事務局

これは、修正します。

須崎委員

それから、11ページの「平成33年以降」の部分は修正済みですので、次にいきます。

フィリピン語の定義をお伺いしたいです。通常、私たちは、「タガログ語」と表現するのですが、フィリピンではタガログ語以外にもたくさんの言語が使われているので、ここでは、フィリピン語というひとつの言語を指しているのか、タガログ語やフィリピン語全てを含めた言語という意味で使っているのかどちらでしょうか。

じむきょく
(事務局)

ふいりびんご きほんてき たがろぐご おな い み にんしき
フィリピン語は、基本的にはタガログ語と同じ意味として認識しております。

すざきいん
(須崎委員)

たがろぐご か ふいりびんご か
タガログ語と書かずにフィリピン語と書くのですか。

じむきょく
(事務局)

ふいりびん こうようご かんてん ふいりびんご ひょうき いっぱん たがろぐご よ
フィリピンの公用語という観点ですと、フィリピン語と表記されています。一般にはタガログ語と呼
ばれておりますが、フィリピン政府の 考 えを用いてフィリピン語としました。

すざきいん
(須崎委員)

ペー ジ ギョウメ リカイ
それでは、12ページなのですが、3行目「ついでに理解で・・・」が、「理解が」としたほうがしっくり
くるのではないのでしょうか。

ペー ジ した ほう ねんかん ことば で
18ページですが、下の方で「この8年間」という言葉が出てきていますが、いきなり出てきているの
で、不自然だと思います。ですので、先に「計画の8年間」を定義付けしたほうが良いのではない
でしょうか。読んでいけばわかりますが、意味がすぐにわかりませんので、先に「計画の8年間であ
る」と説明するほうがわかりやすいと思い、この順番ではどうかと思います。

ペー ジ こくさいこうりゅうきょうかい こま い おも
21ページですが、国際交流協会のことを細かく言いたいと思います。

ちいき かんけいきかん つうやく きかくうんえい さぼーと きさい こくさい
まず、「地域や関係機関・・・通訳や企画運営などをサポートします」と記載がありますが、国際
交流協会では、既に外国人市民向けに防災訓練を実施しております。ですので、これを書くよりも
「外国人対象の防災訓練を実施することにより、外国人市民の防災に対する意識の醸成を図りま
す。」としたほうが現実的だと思います。

ペー ジ こまき げんじょう じちかい く ひょうき じちかい く わ かた
23ページですが、小牧の現状とあって、自治会、区と表記されていますが、自治会と区の分け方
がよくわかりません。

こやなぎいん
(小柳委員)

わたし く じちかい よ おも わたし す ちいき く
私は「区」でも「自治会」でも良いと思います。私の住んでいる地域ですと、「区」が 23 ありまし
て、さらに別に町内会が4つあります。町内会はイコール自治会、自治会の上に区がある。私の
住んでいる地域のように町内会加入率100%で外国人市民がいるなら「区」で良いのですが。違
う場合もあるので。「区」に限定しないほうが良いと思います。

すざきいん
(須崎委員)

この自治会と区は別のものだということですか。

こやなぎいん
(小柳委員)

そういうふうに考えれば良いと思います。区を形成するものではあるのですが、区とは違うこともしておりますので。

じむきょく
(事務局)

この部分ですが、おっしゃるとおり、表現が統一されていない部分がございますので、そのあたりはこちらで見直しをさせていただきます。

すざきいん
(須崎委員)

続きです。25ページですが、(3)めざすことを考えた理由、のところですが、「生活に必要な情報の多くは日本人市民向けに日本語で書かれている為、それを理解することは外国人市民は日本人市民に比べて難しくなります」とありますが、わかりにくい為、「日本語で書かれているため、外国人市民にとってそれを理解することは日本人市民に比べて難しくなります。」としたほうが良いのではないのでしょうか。

29ページです。国際交流協会のことが記載されていますが、まず一つ目の「小学校入学準備スクール」ですが、これは「プレスクール」という名称でやっていますので、文言を修正していただいたほうがしっくりきます。

それから子どもが母語や外国の文化や習慣を学ぶことができる場作りをします、とありますが、今、「ジュニア企画」という事業をやっております。ジュニア企画というのは外国人児童と日本人児童が交流しながらいろんな勉強をしていきましょうという事業ですので、例えば「外国人児童と日本人児童が交流を図るなかで、外国人児童の学習の場を提供していきます。」のような書き方に修正していただきたいと思っております。

32ページの挑戦することの2番目、「外国や母語、日本語の・・・多文化共生の大切さを知ることのできる行事を増やします」とありますが、「行事を増やす」という表記ですと、予算やいろいろな関係がありますので、「行事の充実を目指します」という表記に変えていただきたいです。

同じく32ページの、挑戦することの4つめですが、地域で行われる行事は地域が主体となっていくのが筋だと思っておりますので、「企画運営のサポート」ということで、どの程度のサポートかはわかりませんが、地域の行事は地域が主体となるという記載の仕方を望みます。

35ページですが、実施主体の表罫線が細く見づらいので太くして欲しいです。

36ページですが、ここに書いてある「本計画の見直し」は、中間見直しなのか、2027年度までい
って、その後2028年からの計画の見直しなのかどちらでしょうか。

事務局
(事務局)

基本的には、このプランの見直しですので、中間見直しではありません。そうすると期間が長い
のではないかという意見もあります。ですので、計画途中の修正については、推進の体制の中で、
拡充や新たな対応が必要な項目があれば、柔軟に検討していきたいと考えております。

近藤会長
(近藤会長)

今おっしゃったことについては、おおむねそのように修正するということが良いですか。

事務局
(事務局)

こちらで修正させていただきまして、みなさまにご確認いただけたらと思います。

須崎委員
(須崎委員)

今日渡していただいたものには新たに「市について」の項目が加えられておりますので、私もそ
ちらを確認してわからないことがあれば、事務局へ確認したいと思います。

肥田野委員
(肥田野委員)

「小牧市まちづくり推進計画」を策定していますが、その中でSDGs、それに沿ったものとして
意見があるようですが、推進プランもSDGs に方向を定めたいうえで策定したほうが整合性がとれる
のではないのでしょうか。

それと、13ページのめざすことの達成状況ですが、これはPDCAサイクルをまわす面でとても
重要なものです。その割には内容が薄いのではと思います。たとえば、めざすことは全部で 35個
ありました。そのうち達成できたのは 21個。達成できていないものは 14個あったわけです。なぜ
達成できなかったのか、きちんとここに明記することが必要です。それに対して次、どうするのか、
しっかり書いていただく。時代にそぐわなくなってしまった事については、達成率の計算からは
省いてもいいでしょうし。

第2回こまき調査ですが、無作為に配布したのか、どこかで配布したのかなど、アンケートの方法
についてわからないので、それも含めて回答率も一緒に明記してほしいです。

あと、クロス分析をしっかりとやっていただきたいと思います。年齢によって、年代によっての回答

ちが
の違がいでくるとおもいます。そこをぶんせきしっかり分析してほしいです。

それと、各主体、実施主体の企業について、他の実施主体については、行政が動けば一緒に動いてくれると思いますが、企業は難しいので、企業に対して推進プランをPRして進めていくためにどうしていくのか教えてください。

じむきょく
(事務局)

まず、SDGs について。プランの中で多文化共生にかかわる部分でどういったSDGs の目標を載せるのか検討中ですので、検討内容を見ながら進めていきたいです。

また、13ページのどの部分が達成できなかったなど、さらに精査をすすめて、追記をさせていただきます。

アンケートの回答率などは、載せる方向で進めていきます。クロス分析につきましては、昨年の9月にアンケート結果を公表させていただいております。そちらでクロス分析の結果が出ております。こちらに載せるかどうか検討します。

各主体についてですが、企業にどのように動いていただくかは、私たちも難しいとおもいます。商工会議所ですとか企業の皆さまも今日来ていただいておりますので、そういったつながりの中で、いろいろなところで広報していきたいとおもっています。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

クロス分析についてですが、ホームページ上で公表されているようでしたら、URLを記載するな

ひだのいいん
(肥田野委員)

クロス分析の結果がこうだったから、こうしたと明記したほうが良いとおもいます。全部載せる必要はないとおもいますが。

かわついいん
(川津委員)

企業についての取り組みですが、具体的にどのような形で伝えていくのでしょうか。

じむきょく
(事務局)

こういうことに挑戦してほしいということ啓発、PRしていくのがまず必要だとおもいます。チラシなどで、是非挑戦していただきたいと、協力を依頼する形になるとおもいます。

ひだのいいん
(肥田野委員)

ちゅうしょうきぎょう ちゅうしょうきぎょうしんこうじょうれい じょうれい しょうこうしんこう か
中小企業にかぎってですが、「中小企業振興条例」がありますので、条例のもとで商工振興課と
いちど はな
一度お話しをされてはいかがでしょうか。

なかむらいん
(中村委員)

べーじ こまき かだい じちかい みかにゆう たか すうち まえ
23ページの小牧の課題ということで、自治会への未加入が74%と、高い数値になっています。前
い
から言っているのですが、これをこのままにはできないと思います。具体的には小牧市はどうやっ
ていくつもりなのか教えていただきたいです。

じむきょく
(事務局)

べーじ がいこくじんしんみん じちかい みかにゆう ぜんたい かにゆうりつ やく
23ページ、外国人市民の74%が自治会へ未加入だということですが、全体の加入率が約81%
がいこくせき かん ひく すうち おも
ですから、外国籍のみなさんに関しては低い数値だと思っております。

こちらにつきましては、自治会の方々にお願いをするしかないのかなと考えています。外国籍の
ひと い じちかい あんない びょうどう ことば
人だからと言って、自治会の案内をしないのは平等ではありません。ですが、言葉がわからないこ
とで、どうやって案内したら良いかわからない、案内を理解できないといったこともあるのが実情で
あんない よ あんない りかい じつじょう
す。今回めざすことの2の中で、自治会のしおりなど、多言語で書かれたものを、区長会や総会で
こんかい なか じちかい たげんご か くちょうかい そうかい
配布してはどうだろうということで、挑戦することの中に加えさせていただきました。

たかさきいん
(高崎委員)

わたし こまきしんみん じじょう おな ねんいじょうす
私は小牧市民ではありませんし、いろいろな事情で同じまちに3年以上住んだことがないので、
げんざい じちかい かにゆう かつどう し わ
現在も自治会に加入したことがなく、どういった活動をしているのか知らないわけなのですが、我
こう ざいせき がいこくじんせいと ほんねんど にん かにゆう
が校に在籍している外国人生徒が本年度100人になりまして、みんな加入していないようです。
ひとり まえ ひとり800えん だ かにゆう がいこくじんせいと ぼあい ひと
一人ですが、前のところで一人800円を出して加入していたようですが。外国人生徒の場合、一つ
へや にん にん しえあ す ちょうないかいひ いちせたい
の部屋を3人から4人くらいでシェアして住んでいるようです。町内会費について一世帯でいくら、
かんが じゅうみんひとり かんが おし すうひやくえん おも
という考えなのか、住民一人でいくらという考えなのか教えてほしいです。たかだか数百円と思
われるでしょうが、留学生にとっては大きな負担になります。私ども、日本語学校については、
こんご かんが よ
今後どのように考えていけば良いのでしょうか。

じむきょく
(事務局)

じちかいひ かくじちかい けつてい われわれ もう あ
自治会費につきまして、各自治会で決定していますので、我々のほうで申し上げられないのが
じつじょう
実情です。

こやなぎいん
(小柳委員)

今後自治会の中では、地域協議会が重要になってくると考えています。企業には働きに行く、日常的に住むのは地域です。地域でどのように受け入れ、コミュニケーションをとるのが非常に重要です。言葉が通じないということは大変ですが、こちらが笑えば、あちらも笑うといったように、コミュニケーションを積み上げていくものだと思います。これから、小牧市が活力のある持続可能なまちであるために、外国人市民の活躍が非常に重要になることを理解しなければならないと思います。地域の役割も重要です。ですが、地域だけではなんともならないとなったとき、学校だとか、企業だとかで地域の中での横のつながりが大切なのだ、地域のなかで横が連携して取り組む必要があるのだと、啓発してほしいです。学校や企業と行政、地域がしっかり連携していかなければダメです。このプランの中で、横の連携を大切にし、お互いに助け合うということを入れてもらいたいです。

**まえだいいん
(前田委員)**

地域の中だけの話をしますと、区長さんの悩みで一番大きなものは、外国人住民のごみの出し方についてです。この計画に関しましては、外国人住民もこのまちで働いている、学校に行っている、生活しているのだとよくできた計画だと思います。実行計画なども今後あるのかもしれませんが、一番区長さんが困っておられるごみの出し方の周知についてもふれてほしいと思います。

**やまもといいん
(山本委員)**

大学として、日本語学習者ニーズへの対応というのが役割になっていますが、子どもには学校が対応しています。では大人の学習ニーズへの対応は、市の日本語教室の参加率を聞きたいのと、通訳や翻訳は対症療法で、言語の習得という異文化理解の根本的な解決にはならないと思うのですが、市としてはそのあたりのサポートなどどのように考えているのでしょうか。

**じむきよく
(事務局)**

まず、日本語教室の参加率ですが、市が補助金を出しております小牧市国際交流協会が日本語教室を実施しておりまして、こちらが年間約500人強、約580人の方に参加いただいています。全体の参加率ではないのですが、このあたりの、かなり大きな日本語教室と考えています。それ以外にもNPO法人が子どもの学習支援も含めて日本語教室をやっております。そういったところと連携を深めまして、切れ目のない支援といいますか、日本語を学びたいという人々にここで学ぶことができる教えられる体制をとっていきたいと思います。この部分は、27ページになります

が、多文化共生推進室の4項目目に記載がございます。

やまもと い い ん
(山本委員)

けいざいてき
経済的なサポートというのはないのでしょうか。

じむきょく
(事務局)

いま
今のところございません。

くりき い い ん
(栗木委員)

がっこうきょういく か かいせつ にほんごしょきしどうきょうしつ こ がっこう かよ
学校教育課として開設している日本語初期指導教室ですが、子どもたちはすぐに学校に通うこと
むづか げつかん きょうしつ まな がっこう かよ
は難しいので、3か月間そちらの教室で学んでから、学校に通うことになっています。しか
げんじょう にほんごしょきしどうきょうしつ ばんくじょうたい きょうしつ にんことしはい
し、現状として、日本語初期指導教室がパンク状態になっています。ひとつの教室に 20人今年入
てきています。20人ではできないので、別にひとつ場所をお借りして実施しています。他の
ぷらん ふく じっこう かね おも よさんてき そち
プランも含めてですが、実行するにはお金がかかるのだらうな、と思います、予算的な措置があれ
ば、推進しやすいのですが、もしなければ難しいのではと思います。どうなっているのでしょうか。

じむきょく
(事務局)

けいかく たいけい すいしんけいかく した けいかく いち さくてい すず
計画の体系としまして、まちづくり推進計画の下の計画として位置づけ策定を進めています。
よさん いま ぐたいてき もう あ かくぶしょ ひつよう すず
予算については、今ここで具体的に申し上げることはできませんが、各部署が必要などころで進め
ていくものであります。

ひらさか い い ん
(平坂委員)

こまきし がいこくせき こ がくしゅうしえん げんざい おとな きょうしつ こ
小牧市で外国籍の子どもたちの学習支援をしています。現在、大人の教室と、子どもたちの
がくしゅうしえん ふしゅうがく こ にん せんせい かつどう こ
学習支援と不就学の子どもたちなどを 16人の先生でみて活動をしています。その子どもたちのお
かあ き おとな にほんごきょうしつ ざつだん なか き こまきし ねん
母さんたちから聞きましたり、大人の日本語教室の雑談の中で聞きますには、小牧市にもう20年も
す ふだんにほんご ほな はけんがいしゃ つと くにべつ じゅうぎょういん
住んでいるのに、普段日本語をほとんど話さない、と。派遣会社に勤めているが、国別で従業員
ぐるーぷ わ にほんご つか こまきし しごと た
がグループに分けられていて、日本語を使わなくても小牧市で仕事ができている、ちゃんと食べて
いけるという話をよく聞きます。日本語に困っていないと、日本語を使わないのだと、本当に思い
ました。子どもたちの親たちと話しても片言の日本語で、子どもたちは日本の学校に通ってどんど
にほんご しゅうとく おや いっこう じょうず べんきょう きかい じぶん
ん日本語を習得していくのに、親たちは一向に上手になりません。勉強する機会もないし、自分た
ちで日本語を話して多文化共生社会の中で日本人市民と仲良くしていこうという方々もいますが、
ぼご こみゆにてい なに おな くに ひと き
母語でコミュニティがもうできてしまっているので、何かあれば、同じ国の人に聞く、わからないこと

は市役所などに出向いて母語で聞いて、という状況です。ですので、子どもたちが学校からもらってくるプリントも多言語に翻訳してあるものはほとんどありませんので、親たちは読みません。日本語のできる子どもに説明してもらおうとしても、漢字が読めませんし、子どもでは言葉の意味がわからないことも多いです。そういう現状の中で日本語教室をやっていますが、小牧市の中で多文化共生をすすめていくには難しい課題がたくさんありすぎるのではと思います。

企業がどこまで協力してくれるのかということと、地域協議会が立ち上がっていますが、外国人市民をどのようにして巻き込みながら、生活をして、言葉もわからないところを教えながら、共生社会を進めていくのか、非常に難しいのではないかと思います。

この協議会ができたことにより、20年前と比べると状況はだいぶ良くなりました。これからどんどん外国人市民がやってくる中、子どもたちは初期指導教室に通って日本語の基礎を学んでから、学校へ行っていますが、勉強についていけなくなって、私どもの教室へやってきます。ダブルで学校が終わってから課外の日本語学習支援に通い、勉強していますが、とても時間がかかりました。高学年で日本へやってきた子どもたちは、進学・就職の壁にぶつかり、言葉の壁にぶつかり、進路や将来について夢を持つことが難しい現状です。それをわかってくれる地域の人というのは少なく、難しいなと思います。NPOなどの支援も増えてきているので、後は企業など、働いている大人の外国人市民のみなさんへ日本語を学べる機会があればと思います。私の中では、課題が多すぎて、こうやって協議会ができて多文化共生社会の推進がうまく進めば良いと思います。

近藤会長

時間が少なくなってまいりました。まだ伝え足りないというかたは、事務局にお伝えくださって、このプランについては、これで区切りといたします。それでは、4. その他へ移ります。

4. その他

事務局

事務局より、事務連絡です。次回の協議会は2020年1月を予定しております。今回の会議をもとに修正などを進め、次回はパブリックコメントに向けての会議となります。

小柳委員

わたし ちいき ちいき まつ がいこくせき こ にほんじん こ いっしょ
私たちの地域では、地域のお祭りをしますと、外国籍の子どもたちと日本人の子どもたちが一緒
あそ き うんえいす たつ ふ おやご さんか にほんじんし じん ぜん
になって遊びに来てくれます。運営スタッフにも親御さんが参加してくれます。日本人市民でも全
いん き がいこく かたがた ぜんいん さんか わたし
員は来てくれないので外国の方々も全員ではありませんが、たくさん参加してくれます。私は
がっこう ちか す にほんじん こ がいこくじん こ あいさつ
学校の近くに住んでいるので、日本人の子どもたち・外国人の子どもたちみんなに挨拶していま
ち く ち く なか こうほうし さいしょ ぼるとがるご ほんやく がいこくじんし じん
す。地区によっては、地区の中だけの広報紙でも最初からポルトガル語の翻訳が外国人市民の
じちかいいん て ちいき きょうりやく
自治会員の手によりついていたりするところもあるようです。地域もみんなで協力していくのだとい
し
うことを知っていてほしいです。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

さいしょ じちかいかつどう むずか まつ おとな こ たの
最初から自治会活動は難しいかもしれません。それでもお祭りだったら、大人も子どもも楽しい
おも で きょうゆう さんかりつ ひく きぎょう ぎょうじ さんか うなが たの
思い出を共有できます。まだ参加率は低いので、企業もそういった行事への参加を促したら楽し
おも で おも たんき にほん す かた にほんごしゅうとく むずか
い思い出をつくることができると思います。おそらく、短期で日本に住む方には日本語習得は難
ちようき す かた にほんごしゅうとく むずか
しいのかもしれませんが、長期で住む方に、日本語習得は難しいとしてしまうのは、これからはや
めましょうという、変えていきましょうということですね。今後、特定技能の方など、かなり日本語を
じゅうし かた こまきし なが にほん す かた う
重視した方もやってくるようになりますので、小牧市としても長く日本に住んでいただける方を受け
い たぶん かきょうせい すいしん よ おも
入れていって多文化共生も推進していけたら良いのではと思います。

だい かいこまきしたぶんかきょうせいきょうぎかい しゅうりょう
これにて第2回小牧市多文化共生協議会を終了いたします。

いじょう
以上